



報道機関 各位

2022年 2月 7日
学校法人 国際医療福祉大学

オミクロン株「BA.2」感染例として22例を診療

国際医療福祉大学成田病院、国際医療福祉大学ゲノム医学研究所は、昨年12月2日から本年1月15日までの間、成田病院で新型コロナウイルスのPCR検査で陽性と判定したほぼ全例に相当する92検体について、ウイルスゲノムシーケンス解析を実施しました。その結果、86例(93.5%)がオミクロン株で、6例(6.5%)がデルタ株と、急速にオミクロン株に置き換わっていることが確認されました。

さらに、オミクロン株の詳細な分類をしたところ、より強い感染力を持つ可能性があるとして注目されているオミクロン株の下位系統の1つであるBA.2が22例と、オミクロン株の約4分の1(25.6%)を占めました。BA.3株は検出されませんでした。BA.2の感染力はBA.1より強いと報告されていますが、BA.2についてこれまで国内でまとまった数の症例の診療実績のあるところはなく、その臨床症状の詳細は明らかではありませんでした。

■ BA.2株の大部分は外国からの入国者から

BA.2株が検出された22例のうち18例は、海外から入国した方々の検体から確認されました。フィリピン、インド、インドネシア、マレーシア、アラブ首長国連邦(UAE)からの入国者で検出され、欧州、北米から入国した方の検体には含まれていませんでした。残る4件は発熱外来から感染が判明したものです。

	オミクロン株		デルタ株	合計
	BA.1	BA.2		
成田病院	64	22	6	92

■ BA.2の症状、BA.1と比べて明らかな差異は認められず

今回の調査対象となったBA.2株による22例について、全例が、軽症あるいは無症状でした。また、ワクチン未接種者は12歳以下の子供3人を含む5人で無症状者が見られた一方、接種者で咽頭痛、咳などの症状(いずれも軽症)の見られた例もありました。重症化という点に関しては、BA.2株は重症化リスクのない症例においては、軽症以下で留まる例が多く、BA.1株と明らかな差はないとみられます。



▽本学の検査方法

本学では、オミクロン株検出用キットの販売前から、迅速検査法として、サンガーシーケンス(キャピラリーシーケンス)法によるオミクロン株の検出系を確立し、判定を行ってきました。

既に販売されているオミクロン株検出用 PCR 検査キットでは、現在までに報告されている 3 種類のオミクロン株(BA.1、BA.2、BA.3)を区別することはできませんが、本学の検出方法では、BA.1、BA.2、BA.3 の区別が可能です。

▽BA.2 株とは

オミクロン株について、ゲノム塩基配列の解析から、下位系統として 3 種類(BA.1、BA.2、BA.3)があることが知られています。現在、日本で流行しているのは BA.1 です。BA.2 は、BA.1 と比較して、スパイクタンパク遺伝子上の変異として、19 か所が異なっています。PCR 検査法によっては、BA.2 株の検出ができず、デルタ株と判定される場合があり、ステルスオミクロンとも呼ばれています。

BA.2 の感染力は、BA.1 よりも強いという研究報告があり、注目されています。

■本件についてのお問い合わせ先■

国際医療福祉大学ゲノム医学研究所
辻 省次 所長
国際医療福祉大学医学部感染症学講座
松本 哲哉 主任教授

※ご連絡先

国際医療福祉大学 東京事務所 広報部
東京都港区赤坂 4-1-26
TEL : 03-5574-3828、FAX : 03-5574-3827